

コロブスの卵

東京大学名誉教授・國語問題協議會名誉會長 宇野精一氏

〇歳児が漢字を記憶するというのも、言われてみればコロブスの卵のような話ですが、私がそのことを聞いてすぐ思ったのは、幼児が顔見知りするという事実です。人間の顔は千差万別であるのに、生後二ヵ月もたてば親の顔を記憶し、それ以外の人を識別するのはなぜでしょうか。

人間の顔が識別できれば、漢字の識別は当然可能なはずですが。石井さんはそういう点から着想されたのかは知りませんが、実験で証明しておられます。

(『石井式漢字教育 25 周年の歩み』日本漢字教育振興協會編より)

丸暗記が可能な子どもの時代こそチャンス

幼児開発協會元理事長 故・井深 大氏

石井勲先生は幼児教育に初めて漢字を導入した、漢字教育のパイオニアです。

私は昔から、幼児期はパターンの時代だといひ続けてきました。私のいうパターンは、意味のある事柄を形に表し、しかもその意味を追わず、単なる形として見る、というものです。

それにピッタリなのが漢字です。パターンとしての漢字は、子どもの場合、文句なしの丸暗記が可能なのです。丸暗記が可能な幼時期

に、もっと徹底して丸暗記させておくべきだ、と私は考えます。
(『石井式漢字教育 20 周年記念誌』幼年国語教育会編より)

漢字こそ幼児には識別しやすい

お茶の永女子大学名誉教授 藤永 保氏

ワープロがこんなにも普及し、また外国人への日本語教育法が新しい問題となる現代においては「よみかき平行主義」という伝統も基本的に考え直す必要があるでしょう。好むと好まざるとにかかわらず、こうした情勢は、漢字の「かき」よりは「よみ」のほうに大きく比重を移しつつあるのです。

そして、ひらがなは字画が簡単なために「い」「こ」「り」のように幼児にとって混同しやすい字形が生じやすいのに対して、漢字は複雑な字形をもつために、ある限度までは相互に識別しやすいのです。そのうえ、漢字は意味をもっているから記憶に残りやすいわけです。

これらを考えあわせると、漢字こそ、まさしく「よみ」に適した文字といえるでしょう。

(『石井式漢字教育 25 周年の歩み』日本漢字教育振興協會編より)